

氏名(本籍)	陳	立	行(中国)
学位の種類	社会学博士		
学位記番号	博甲第711号		
学位授与年月日	平成2年3月23日		
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当		
審査研究科	社会科学研究所		
学位論文題目	都市空間と社会的ネットワーク —长春市を事例として—		
主査	筑波大学教授	佐藤	守弘
副査	筑波大学助教授	駒井	洋
副査	筑波大学講師	町村	敬志

論 文 の 要 旨

本論文は、中国の都市における社会的ネットワークの変遷を、都市空間の影響という視点から理論的かつ実証的に考察することを目的としている。そのため本論文は、长春市を題材として、社会主義的な都市空間がどのように中国の伝統的な社会的ネットワークを変容させ、また新たな社会的ネットワークを生み出したかを実証研究した。

空間の形式が社会的ネットワークをどのように規定するかという問題は、きわめて重要でかつ興味深いものであるにもかかわらず、従来はシカゴ学派の系統などごく一部の例外を除いてほとんど存在しなかった。それは、この問題の実証的研究がきわめて困難なことに由来する。

本論文の大きな特色として、长春市において無作為に抽出された市民に対する面接質問紙調査によって得られたデータ、及び有意に抽出された少数の市民に対するインテンシブな聴き取り調査により得られたデータを駆使していることがあげられる。社会主義国中国では、社会調査一般とりわけ質問紙法による大量調査には大きな制約があり、本論文のように、収集された第一次資料に基本的に依拠する研究はほとんど例を見ない。

长春市において事例研究を行った理由は、第一にこの都市が典型的な人工のおよび社会主義的空間計画に基づいて構成されたものであること、第二にこの都市には伝統的な社会的ネットワークも新しいそれも共に存在していることがあげられる。さらにこの都市が本論文の執筆者の出身地であるため、研究の便宜が得られやすかったということも付け加えたい。

本論文は、はじめに、第1章から第8章、結論と展望から構成されている。以下本論文の構成にしたがって、その要旨を要約する。

はじめにの部分では、本論文全体の問題意識と構成が概観される。

第一章は理論的構想と題されるが、空間の性格と社会的ネットワークに関する既存の理論の検討がなされるとともに、本論文の理論の枠組みを提示する。空間の性格については、D. ハーヴェイを援用して空間の社会過程に対する影響力をも重視する相対的空間論に立ちながら、経済優越型空間秩序と政治優越型空間秩序の2類型が区別され、後者では空間が支配階級により具体化、手段化されることが提唱される。また社会的ネットワークについては、J. ボワセベン等を援用しながら、その類型化が試みられるとともに、精神的連帯と利益的結合の統一体として把握される。

第2章では、中国の都市計画のイデオロギーが検討され、引き続いて空間の国有化を基礎とする管理および経済政策の遂行の場として、中国都市が政治優越型空間秩序を保有していることが指摘される。その大きな特徴は職域集団地域の成立とその多機能化である。

第3章は調査地域の検討に当てられている。まず計画型都市としての長春市の沿革が歴史的に検討される。続いて旧市区地域と職域集団地域の状況が対比され、職域集団地域においては住宅空間と施設に優れ、住民の階級構成は上位にあり、住民の空間的移動はより大きいことが明らかにされる。

第3章から第8章までは、伝統的な社会的ネットワークとその変容を検討する第4章および第5章と、現在の社会的ネットワークのありかたを検討する第6章から第8章までの二つの部分に分けることができる。

第4章では、中国都市の伝統的な社会的ネットワークとして血縁関係と地縁関係なかでも同郷集団が取り上げられ、その成立には空間の集中と近接とが重要な要因として存在していたことが主張される。血縁関係は精神的連帯の要素が強いが、地縁関係では利益的結合の要素が強かった。

第5章では、政治優越型空間秩序の確立が伝統的な社会的ネットワークに対してどのような影響を与えたかが、調査結果に基づいて分析されている。血縁集団については、従来の氏族組織が消滅して家族と親族の連合体へと変容した。地縁関係は組織としては完全に崩壊して、残ったものは互酬的活動による地縁関係だけになった。しかも職域集団地域では、そのような地縁関係さえほとんど存在しなくなった。

第6章では、血縁関係と地縁関係が変容ないし消滅した後の現在の中国都市における社会的ネットワークのありかたが明らかにされる。全体的に言えば、血縁関係以外に職場関係と学友関係が登場した。また職域集団地域では、社会的ネットワークを持たない孤独型が増大していることが実証される。

第7章では、政治優越型空間秩序のもとでの社会的ネットワークとして、血縁関係の新たな凝集がみられることが分析されている。その理由としては、家族全員が職場空間に集中する傾向が顕著になったこと、また、強力な政治的抑圧が存在していることがあげられる。

第8章では、とりわけ「関係網」の形態をとる社会的ネットワークが注目されている。これは利益的結合の要素がきわめて強い形態であり、権力階級の関係網はますます広がりつつある一方、非権力階級のそれは狭まりつつある。特に、集団成員の関係網を利用してその集団の利益をはかる集団ブローカーが登場したため、社会的ネットワークは広域化しつつある。

結論と展望においては、政治優越型空間秩序のもとでの社会的ネットワークにおける精神的連帯

の要素の減少が民衆の孤独化を導いたという全体的結論が提示される。さらに、経済改革に伴い政治優越型空間秩序が徐々に崩壊するであろうという予測の上に、社会的ネットワークにおける精神的連帯の回復の可能性が展望されている。

審 査 の 要 旨

本論文は次の諸点から高く評価されてよいと思われる。

第一に、空間と社会的ネットワークの関係の解明という従来あまり蓄積のない困難な領域に挑戦し、理論的・実証的な成果をあげたことがあげられる。本論文で明らかにされたとおり、政治優越型空間秩序の確立は、伝統的な社会的ネットワークを変容ないし崩壊させるとともに、新しい社会的ネットワークの形成へと導いたのである。これは今後の空間政策の樹立に対して考慮されるべき知見であると考えられる。

第二に指摘すべきであるのは中国の社会学的研究に対する貢献である。戦前の日本社会学は、中国社会についての豊かな蓄積を持っていたが、戦後においてはこのような伝統はほぼ途絶しているといってよい。本論文は、その中で模範とすべき先例のない中国都市の研究を行い、その実態の解明に成功している。

第三に、フィールドワークに基づく住民の態度や生活実態に関するデータ収集がほとんど不可能に近い社会主義国中国において、面接質問紙法による調査とインテンシブな聞き取り調査を行っていることがあげられる。従来は、公刊された資料等や国外にいる人々からの聞き取りなどがデータの主要な源泉であった。この意味で本論文の資料的価値は高いと思われる。

本論文の弱点を強いて指摘すれば、第一に空間の性格についての理論的考察がやや不十分なこと、第二に関係網の成立と政治優越型空間秩序の関係の解明が若干不明確であること、第三にデータの統計的処理に不完全な点が散見されることなどがあげられよう。しかしながら、これらは部分的な弱点にすぎず、本論文の長所を損なうほどのものではない。

よって、著者は社会博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。